

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2021.07.No287

7月号

## 目次

令和3年「特別活動費」の 初交付事業を決定する！	1
令和2年度 高校生建築デザイン コンクール入選作品発表	2
技術ノート (CPD自習型認定研修)	4
Coffee Break	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

## 令和3年「特別活動費」の 初交付事業を決定する！

事業委員会 委員長 丹波 泰 哉 (千歳支部)



ブロック会及び支部が住民や行政と一体となって活力ある地域を目指すきっかけとなるように、新たな事業に対して助成する仕組みが今年度より施行されました。助成対象事業の選考や助成額の決定等に関して、事業委員会が所管しております。

初年度は令和3年1月1日より3月31日までを助成申請募集期間としたところ、札幌支部より1件の申請がありました。4月上旬に申請された事業目的や事業内容を当委員会において選考基準に基づき協議を行いました。その後、5月14日の第2回理事会に諮り、助成対象事業及び助成金の額の承認を経て、5月26日に助成の決定・通知を行いました。

初年度に札幌支部より申請された助成対象事業名は「WEB版パズルでお家を考えよう出前授業」です。パソコンやタブレット等を利用し、ブラウザ上で稼働するパズルを使った住教育ツールを開発し、小学生を対象とした出前授業を実施するという事業です。従来はラベル用紙に印刷したパズルをハサミで切り取り、手作業で敷地が印刷された台紙に貼っていくものでしたが、これらの過程を全てブラウザ上で稼働するツール開発することにより、「いつでも」「どこでも」「だれでも」建築士会の住教育サービスをパソコンやタブレット等で受けることを可能としたものです。当委員会では対象事業が「建築士会のPR」「会員等の資質向上」「地域住民との協働」のいずれかが含まれているかを協議し、評価項目と評価内容に照らし合わせて委員各々が採点を実施しました。選考の結果、当該事業は「建築士のPR」及び「地域住民との協働」に当てはまり、17の評価項目についてはおよそ9割の評点を獲得しました。評価員からは「コロナ禍において、活動不十分の中、積極的に活動を行う札幌支部に対し、評価に値する。」や「子供のころから建築に親しむことで、建築士を目指す子供が増えることが期待できる。また、ICTの活用により新型コロナウイルスの感染予防にも対応している点を評価した。」や「時代に合わ

せた新しいツールを考えて実行しようとする試みに期待します。」といった賛同するコメントがあったと同時に、「他のツールと似かよることがなく、独自性を持ったバラエティー豊かなものに発展することを願います。」や「この様な最新技術のみにこだわらずに、人と人とのコミュニケーション、手に取って試みる遊び心のある企画も忘れずに取り組んで頂きたいと思います。」といった要望するコメントもありました。この事業は将来的に更に完成度を高めていく予定だそうです。この事業の今後の発展に期待したいと思います。

令和4年の助成申請募集期間は令和3年5月1日より7月31日までとなっております。当委員会の選考、理事会の承認を経て、9月下旬には助成の決定・通知をする予定となっております。是非、ご活用して頂きたいと思います。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から士会活動していくのは大変厳しいところですが、我々事業委員会としては、この「特別活動費」を活用した事業の情報を発信していき、皆さんの身近な存在で利用しやすいものとなるように、そしてブロック会及び支部活動が活発になるように願っております。



「従来型パズルでお家を考えよう」  
今後はタブレット等を利用して住宅の間取りを考える。

# 令和2年度 高校生建築デザインコンクール入選作品発表

## 課題 『南幌町みどり野きた住まいるヴィレッジに建つ北方型住宅』

北海道建設部建築局、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士事務所協会、北海道建築士会の共催により、第25回目となる「高校生建築デザインコンクール」が開催されました。対象は道内建築系学科の高校生で、コロナ禍により開催の可否が問題となりましたが、参加いただいている各校からも重要な教育プログラムの一つであるため、と開催の要望を頂き例年通りの開催となりました。

例年は北海道が実際に建設予定の有る施設を課題に設定するのですが、今年度は相当する規模の施設計画が無く、少々難題になるかとの懸念はありましたが、『南幌町みどり野きた住まいるヴィレッジに建つ北方型住宅』として、家族4人が暮らす住宅を設計課題として募集しました。

非常事態宣言下での授業の遅れ等を考慮し例年より遅く12月15日締め切り、12月22日に選定委員会を開催し、過去2番

目の応募数となる144作品の中から、最優秀作品賞1作品、優秀作品賞3作品、佳作4作品、特別賞2作品を選定しました。

各選定委員の評価ポイントを基に全体で協議を行い決定しました。最優秀作品 小樽未来創造高等学校3年 阿部大翔さんの「選宅肢のある家」は楽しんだりくつろいだりできる変化のある選択が出来た空間が盛り込まれた住宅で、空間づくり動線、視線への配慮もされた完成度の高い意欲的な住宅でした。

全体に、高校生がここまで作品を作ることが出来るのか、と思うほどにハイレベルな仕上がりででしたが、個人的にはよりチャレンジングなデザインの作品も見なかったという印象もあります。

本年も開催されますので、今から審査が楽しみです。

高校生建築デザインコンクール選定委員  
松本 純 (札幌支部)

最優秀  
作品賞

## 選宅肢のある家

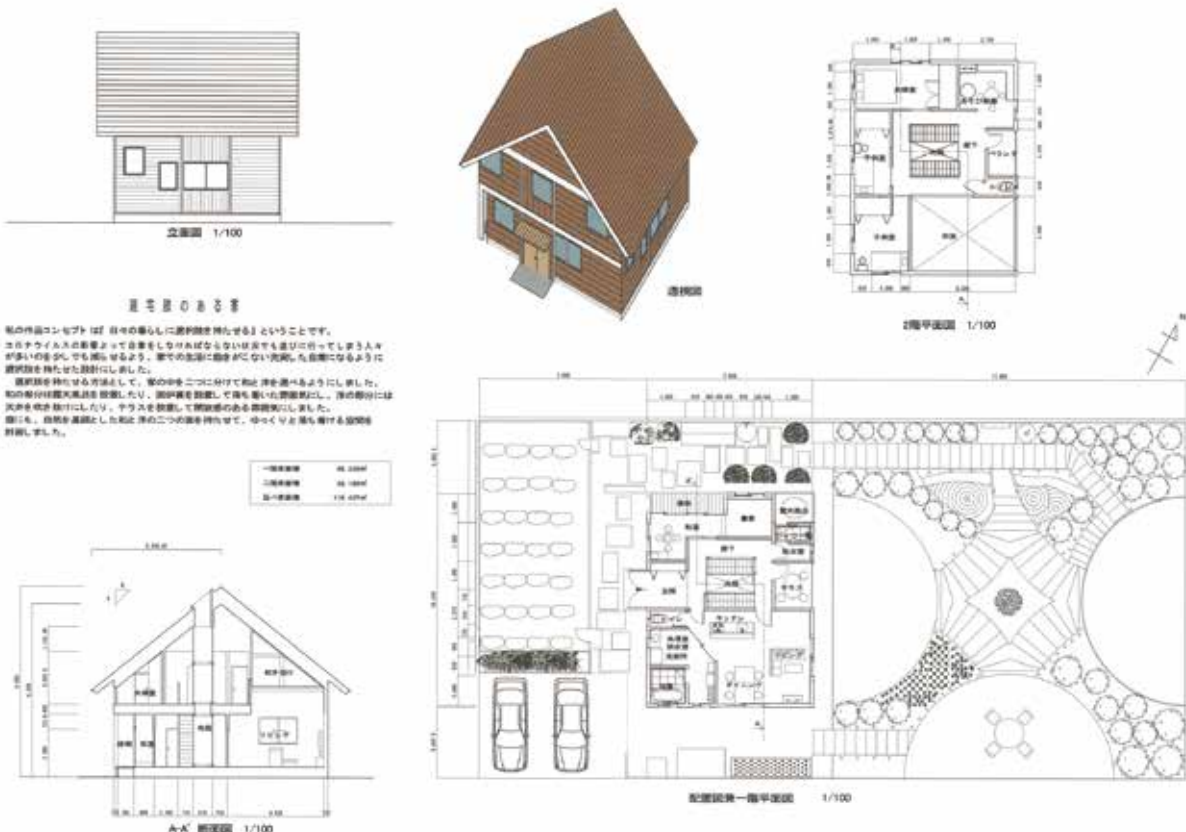
北海道小樽未来創造高等学校  
阿部 大翔 (3年)

### 設計趣旨

私の作品コンセプトは『日々の暮らしに選択肢を持たせる』ということです。コロナウイルスの影響によって自粛をしなければならない状況でも遊びに行ってしまう人々が多いのを少しでも減らせるよう、家での生活に飽きがない充実した自粛になるように選択肢を持たせた設計にしました。選択肢を持たせる方法として、家の中を二つに分けて和と洋を選べるようにしました。和の部分は露天風呂を設置したり、囲炉裏を設置して落ち着いた雰囲気にし、洋の部分には天井を吹き抜けにしたり、自然を基調とした和と洋の二つの面を持たせて、ゆっくりと落ち着ける空間を設計しました。

### 審査講評

全方位に開放した平面計画に力量を感じる。  
シンプルな外観ながら庭庭を取り囲む部屋の配置が良く、採光を取り入れつつ外部空間を室内に取り込む仕掛けが高く評価された。



# 優秀作品賞

北海道小樽未来創造高等学校  
松村 里玖 (3年)

## prairie house

### □設計趣旨

「南幌町の豊かな自然を生かした住宅」というテーマを実現するため、「自然との調和」を図るプレーリースタイルを使用し、南幌町の豊かな自然を最大限に生かした住宅を目指しました。プレーリースタイルとは、水平面を強調し、建物の高さを抑えることで、建物が大地に溶け込むような一体感を出し、自然との調和を図る建築様式であり、この住宅もその特徴を色濃く反映しています。建物本体の高さを抑え、屋根勾配も極力小さくし、窓や玄関ドアなどの随所にも水平を強調するような模様を施しています。また、外壁材には木材や石材など、異なる素材を使用し、柱やテラスなどを強調したデザインにしており、建物に一体感を持たせるようにしました。

### □審査講評

玄関へのアプローチを長くすることにより想定敷地も取り込み、室内からの見え方、空間的に豊かさを感じさせ、デザイン及びプランの仕上がりがレベルの高さが評価された。



# 優秀作品賞

北海道苫小牧工業高等学校  
高橋 鉄三 (2年)

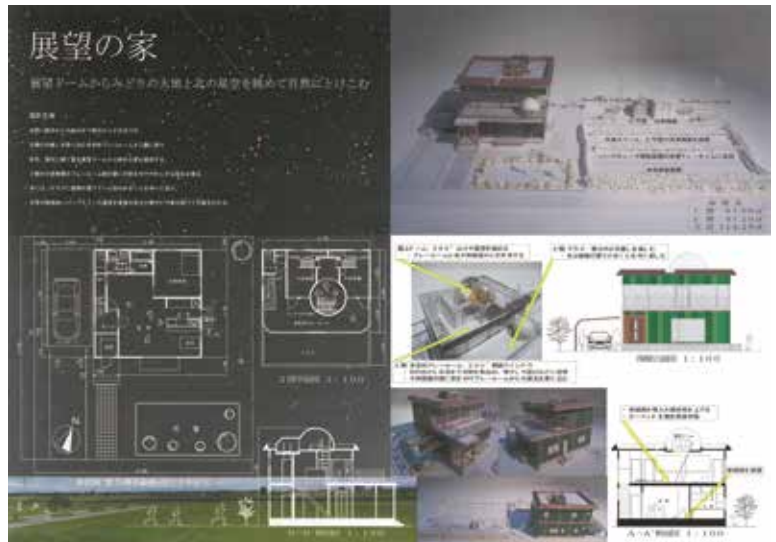
## 展望の家

### □設計趣旨

自然に囲まれた大地の中で朝日から夕日までの太陽の日差しを取り込む多目的プレールームを2階に設け、夜は、満点に輝く星を展望ドームから眺める家を提供する。2階の子ども部屋のプレールーム側の壁に内窓を付けやわらかな採光を得る。冬には、テラスに屋根の雪でドーム型のかまくらを作って遊ぶ。共有の隣接地にパーベキューの道具を保管出来る小屋やピザ窯を設けて交流をはかる。

### □審査講評

コンセプトが明確で、子どもにとってすごく楽しい空間となる作り込みや様々な仕掛けなど、豊かな表現力及びアイデアが評価された。



# 優秀作品賞

北海道函館工業高等学校  
相原 柚奈 (2年)

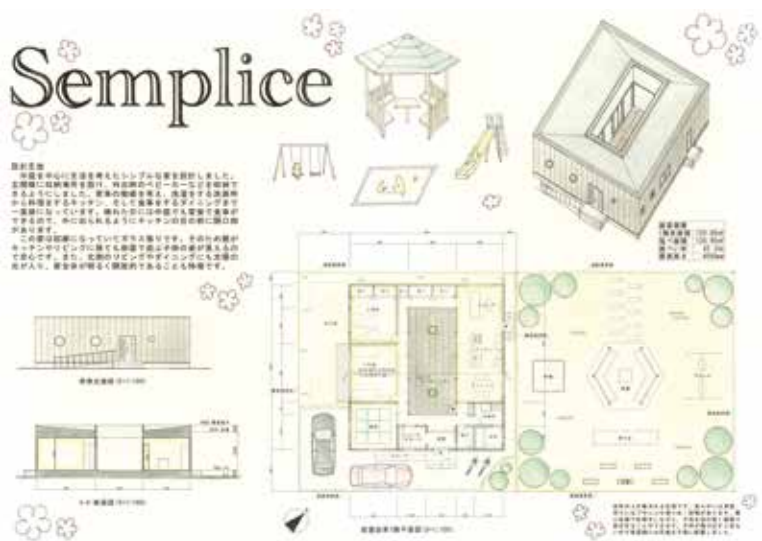
## Semplice

### □設計趣旨

中庭を中心に生活を考えたシンプルな家を設計しました。玄関横に収納場所を設け、外出時のベビーカーなどを収納できるようにしました。家事の動線を考え、洗濯をする洗面所から料理をするキッチン、そして食事をするダイニングまで一直線になっています。晴れた日には中庭でも家族で食事ができるので、外に出られるようにキッチンの目の前に開口部があります。この家は回廊になっていてガラス張りです。そのため親がキッチンやリビングに居ても部屋で遊ぶ子供の姿が見えるので安心です。また、北側のリビングやダイニングにも太陽の光が入り、家全体が明るく開放的であることも特徴的です。

### □審査講評

中庭の提案が魅力的であり、室内のどこにいても自然が感じられ、可愛らしい暖かい表現や楽しい空間となるプランが評価された。



# 事務所建築における自然換気導入の実態と設計方法の検討

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部  
 建築性能試験センター 安全性能部 評価試験課 研究職員 下ノ 蘭 慧

## 1. はじめに

近年、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を目指す多くの建物で“自然換気”が導入されています。自然換気は冷房使用量の削減や熱的快適性の向上に寄与しますが、時々刻々と変動する外気条件によっては、低温環境の発生や室内気流の上昇など室内環境に不利にはたらくこともあります。自然換気に対する苦情要因には換気口操作音や外部からの騒音といった音関連の課題のほか、居住域最上階の温度上昇や熱気・冷気の侵入といった熱関連の課題が挙げられています<sup>1)</sup>。そこで、本稿では既存の自然換気導入建物の実態調査を行ったうえで、熱関連の課題に着目して数値解析を行った結果を紹介します。

## 2. 自然換気導入建物の実態調査

### 2.1 調査概要

調査概要を表1に示します。調査は1985～2020年に発行された研究論文を主として実施しました。基礎情報として建物高さ、基準階床面積など、自然換気に関する項目として、自然換気口有効開口面積（以降、給気口面積）、チムニー頂部有効開口面積（以降、排気口面積）といった面積関連のほか、自然換気駆動力や自然換気許可条件を調査しました。

### 2.2 調査した建物の属性

調査した建物の概要を図1に示します。調査した建物は89件であり、東京に立地する建物が37%（33件）で、最も多くなっています。建物用途はオフィスが最も多く、庁舎建築や研究所など執務室への自然換気導入も多くなっています。建物階数は10階以下の建物が64%（56件）を占めており、中低層の建物への自然換気導入が多くなっていますが、41階以上の建物で自然換気を導入している建物もあります。基準階床面積は2,001～3,000m<sup>2</sup>が32%（11件）で最も多くなっています。

### 2.3 給気口面積（自然換気口有効開口面積）

給気口面積について基準階床面積と建物高さとの関係を図2に示します。図中の“×”プロットは流量係数が不明であったため、流量係数を0.5と仮定して有効開口面積を算出した建物です。基準階床面積との関係によると、基準階床面積の増加に伴い給気口面積も増加しています。個別の建物に着目すると、人員密度の高い学校（大学講義室）では、給気口面積が大きい傾向にあり、最も給気口面積が小さい建物はオフィスビルとなっています。一方で、建物高さと給気口面積にはほとんど相関は見られませんでした。

表1 自然換気導入建物の実態調査概要

基礎情報	建物名、所在地、竣工年月、階数、建物高さ、用途、基準階床面積 など
自然換気	自然換気口有効開口面積（給気側）、チムニー頂部有効開口面積（排気側）、自然換気駆動力、自然換気経路、自然換気許可条件* など

\*自然換気許可条件

自然換気口を開放するときの外気条件と定義され、建物ごとに設定値は異なる。代表的な条件として「下限外気温度」が挙げられ、これを15℃に設定した場合、外気温度が15℃以上のときに自然換気口を開放する制御となる。そのほか、「上限外気相対湿度」、「上限外部風速」、「上下限外気露点温度」、「室内外エンタルピ」等がある。

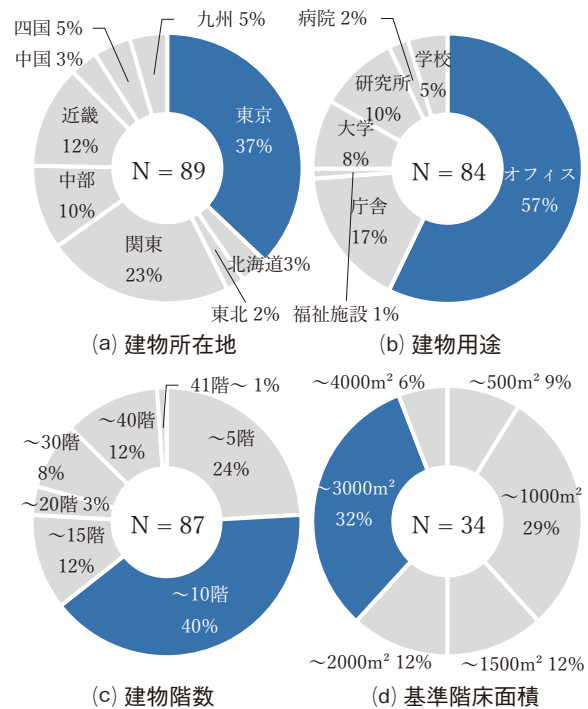


図1 調査建物の概要

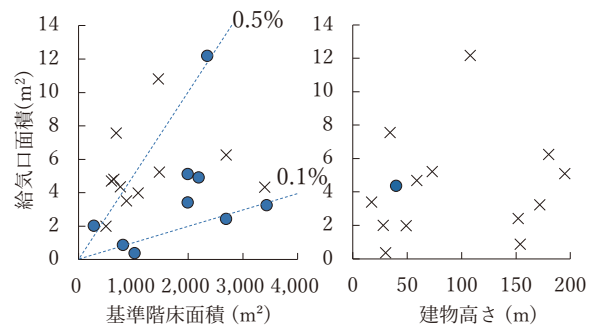


図2 給気口面積

給排気口の例を図3に示します。(a)の給気口は室奥（インテリアゾーン）まで自然換気の気流を到達させるために天井面に設置されている例であり、大平面事務所では多く採用される手法です。(b)の排気口は逆流防止窓と呼ばれるもので、排気口から外気が流入することを防止するために、排気口上部にバランスウェイト（おもり）が取り付けられています。これにより、逆流が発生する際には動力を使うことなく、自動的に排気口が閉鎖されます。



(a) 給気口の例 (b) 排気口の例  
図3 給排気口の例

### 3. 自然換気時の熱関連の課題

自然換気時の熱関連の課題は「居住域最上階の温度上昇」や「熱気・冷気の侵入」が挙げられます。これらの課題の対策案を示します。

#### 3.1 居住域最上階の温度上昇

居住域最上階の温度上昇は建物の“中性帯位置”による影響が大きいと考えられます。中性帯位置とは建物内外の圧力差が0になる位置と定義され、当該位置と当該位置より上部に給気口を設置しても無風時には自然換気は導入されません（図4）。これが居住域最上階の温度上昇が発生する要因となるため、建築計画時に中性帯位置を予測することが重要です。

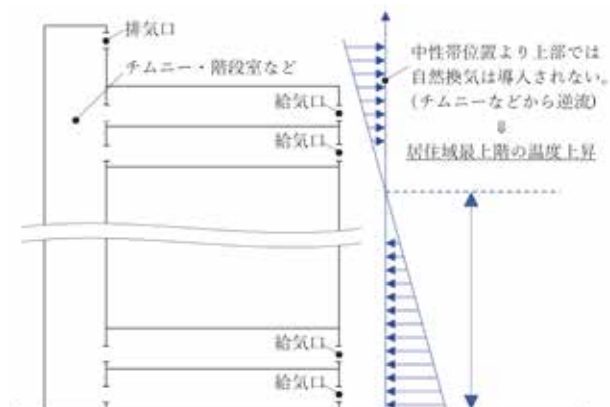


図4 中性帯位置の概念と居住域最上階の温度上昇

中性帯位置の予測図を図5に示します。本図によると、中性帯位置は「各階給気口面積の合計に対する排気口面積の比」を用いることで、建物階数に関係なく、同一曲線で予測できることが分かりました。本図を用いて、中性帯位置を予測することで、居住域最上階の温度上昇を抑制できると考えられます。

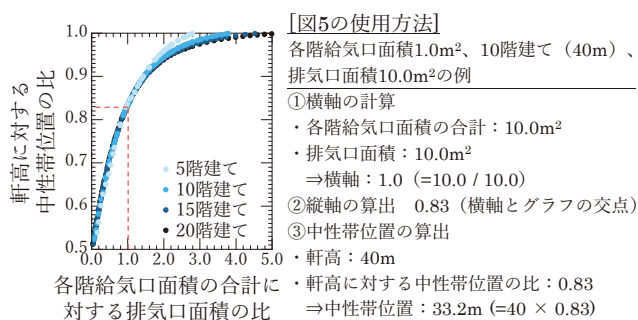


図5 中性帯位置の予測

自然換気量の予測図を図6に示します。図5で予測した中性帯位置からの距離に応じて目標とする換気回数を得るための給気口面積を決定することが可能です。例えば、中性帯位置から30mの位置で3回/hの換気回数を得るためには基準階床面積に対する給気口面積の比を0.08%にする必要があります。同様に、中性帯位置から10mの位置で3回/hの換気回数を得るためには基準階床面積に対する給気口面積の比を0.14%にする必要があります。このように、中性帯位置からの距離に応じて給気口面積を設定することで、各階換気回数を平準化することも可能になります。

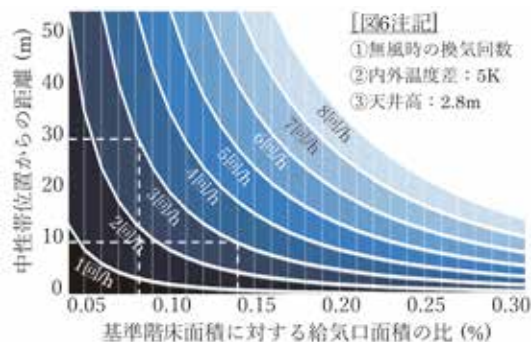


図6 自然換気量の予測

#### 3.2 冷気の侵入

自然換気時の低温環境の発生は「給気口面積」と「下限外気温度」による影響が大きいと考えられます。下限外気温度は外気温度が下限値未満となったときに自然換気口を閉鎖する制御ですが、従来の自然換気口の開閉は「全開」若しくは「全閉」のみ想定しており、当該制御のみでは十分に低温環境の発生を抑制することは困難であるとされています<sup>2)</sup>。そこで、給気口の開放率（開度、開放個数、開放時間）という概念を組込んだシミュレーションツールを構築し、その効果を検証しました。

開放率調整の例を図7に示します。開放率50%の



(a) 開度半分 (b) 開放個数半分  
図7 開放率50%の例

例を示していますが、「開度を半分にする」や「開放個数を半分にする」などが該当します。開放率を調整することで、低温環境の発生を抑制可能か検証しました。

開放率調整の有無による室内温度の推移を図8に示します。開放率を調整することで自然換気時の室内温度を下限値（以降は下限室温設定値と呼び、22℃とします）以下となることを抑制できています。

外気温度と開放率の関係を図9に示します。外気温度と開放率には正の相関があることが分かりました。この関係を利用して低温環境の発生を抑制する方法を説明します。

#### ①開放率を時々刻々と調整できる(する)場合

図中の近似曲線に従って、外気温度に応じて給気口面積を調整してください。

#### ②開放率を時々刻々と調整できない(しない)場合

図中の近似曲線からある外気温度に相当する給気口面積を算出し、得られた値を給気口面積、選定した外気温度を下限外気温度に設定してください。

①または②のいずれかの方法を採用することで、下限室温設定値以下となる時間を抑制することが可能になります。ただし、建物の種々の条件によってはこの限りではありません。表2には中性帯からの距離と内部発熱量ごとに低温環境の発生を抑制することができる給気口面積と下限外気温度の設定例を掲載しておりますので設計の一助となれば幸いです。

### 4. おわりに

本稿では、自然換気導入建物の実態調査の結果ならびに自然換気時の熱関連の課題の対策案を示しました。本稿で紹介できなかった部分もありますので次に示す【本稿に関する既発表論文】も併せてご覧いただけますと幸いです。

自然換気は広く普及しつつある技術ではありますが、建物ごとに最適な設計手法は異なります。北海道立総合研究機構建築研究本部では自然換気のみならず様々な環境設計の助言を行っておりますので、お気軽にお問合せください。

#### 【本稿に関する既発表論文】

- 1) 下ノ藪慧ほか：自然換気利用建物の実態調査と温度差換気の基本解析 オフィスビルを対象とした自然換気制御の性能評価に関する研究（第1報），日本建築学会環境系論文集，第84巻，第755号，pp.55-63，2019.1
- 2) 下ノ藪慧ほか：温度差換気を採用する高層建物の自然換気制御効果の推定法 オフィスビルを対象とした自然換気制御の性能評価に関する研究（第2報），日本建築学会環境系論文集，第85巻，第771号，pp.331-339，2020.5
- 3) Kei Shimonosono et al.: A New Calculating Method of Effect of Natural Ventilation Control in Office Buildings with Buoyancy Driven Ventilation, 2020 Building Performance Analysis Conference and SimBuild co-organized by ASHRAE and IBPSA-USA, Conference Paper Session 6 Modeling Advances-Radiation and Natural Ventilation, pp.244-251, 2020.8
- 4) 下ノ藪慧ほか：自然換気口の開放率特性を利用した温度差換気設計法の検討 オフィスビルを対象とした自然換気制御の性能評価に関する研究（第3報），日本建築学会環境系論文集，第86巻，第784号，pp.608-618，2021.6

#### 【参考文献】

- 1) 山本佳嗣ほか：自然換気システムの運用実態に関する調査，日本建築学会環境系論文集，第72巻，第619号，pp.9-16，2007.9
- 2) 樋山恭助ほか：熱・換気回路網解析を用いた設計時における自然換気運用計画検討手法の提案，建物利用者及び管理者視点に立った自然換気システムの運用最適化（第1報），日本建築学会環境系論文集，第84巻，第756号，pp.161-170，2019.2

自習型認定研修の設問は、P8に記載しています

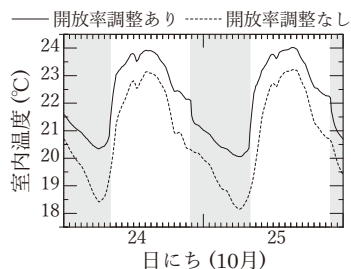
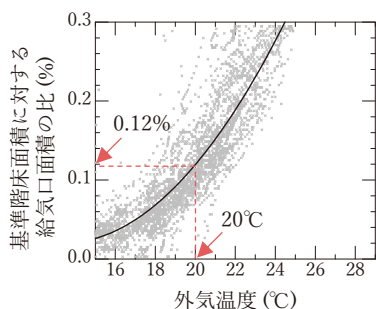


図8 室内温度推移



#### 【図9の使用方法】

計算条件：機器・照明発熱量：10W/m<sup>2</sup>、人体発熱量：18W/m<sup>2</sup>、下限室温設定値22℃、中性帯位置からの距離35m

- ①開放率を時々刻々と調整できる(する)場合  
⇒図中の近似曲線に従って、外気温度に応じて給気口面積を調整する。
- ②開放率を時々刻々と調整できない(しない)場合  
⇒近似曲線からある外気温度に相当する給気口面積を算出し、得られた値を給気口面積、選定した外気温度を下限外気温度に設定する。（左図は外気温度20℃の例）

図9 外気温度と開放率の関係

表2 開放率を調整しない場合の低温環境の発生を抑制するための給気口面積と下限外気温度の設定例

	中性帯位置からの距離			内部発熱量（機器・照明）		
	15m	35m	75m	5W/m <sup>2</sup>	10W/m <sup>2</sup>	15W/m <sup>2</sup>
※特記なき限り、機器・照明発熱量：10W/m <sup>2</sup> 、人体発熱量：18W/m <sup>2</sup> 、下限室温設定値：22℃、中性帯位置からの距離：35m						
基準階床面積に対する給気口面積の比	0.15%	0.12%	0.11%	0.11%	0.12%	0.15%
下限外気温度	20℃	20℃	20℃	20℃	20℃	20℃

## 檜山支部

## 『生涯会員』

相談役

富沢 久平



初めに自分が建築に向かったきっかけは、洋装店(江差町中歌町-いにしえ街道沿い)を営む親の勧めもあり函館工業高校建築科に入学(兄弟の内家業を継いだ次男以外は建築畑に進んだのは自分だけで他の兄や弟は先生から校長、兄1人は特攻隊で戦死)。戦前戦後の混乱期(勤労動員等)で思うような授業もできない)を経て、昭和21年3月に卒業。就職といっても戦後まもない時期で中々なく、4月に建築とかけ離れた江差税務署に勤め、八雲税務署転勤異動を機に辞め、実家にもどり、その後江差町役場に嘱託勤務、昭和29年に職員として採用になり以来昭和61年3月退職までその後十数年の民間建設会社勤務を経ての今現在。

本題の支部内容にはいります。昭和31年5月1日に北海道建築士会桧山地区建築士会として創立しました。当時は桧山支庁の建築に事務局を置き、管内各町の建築担

当者も入会会員になる流れで、御多分にもれず自分も入会会員となりました。(歴代 初代会長田畑義雄→瀬野田明義→田畑栄一→石川三郎→大古正平→若浜崇→佐藤久 現在)当初は会員63名の創立で、多い時は120名~130名位はいたと思う。当初は基準法、寒地建築等々講習会と啓発が支部の活動として特に重きを置いてたと思います。

また、大きい出来事という北海道の指導で事務局を桧山支庁建設指導課に置けない。外部に置かなければならぬ状況下で、事務局の移転を当時の田畑栄一支部長の決断で田畑建設会社内に事務局置くことを承諾したこと(現在:事務局)。事務局の業務は相当な負担を強いたものと思いました。そのことによって北海道、桧山支庁の建築行政との係り、会員とのつながりがやや疎遠になり、会員の加入も鈍ったように思います。

活動の中では毎年の総会(懇親会、親睦麻雀大会-宿泊しながら)研修旅行、現場見学等々。

途中から青森での青森函館の二支部交流に桧山支部も初めて加

わった三支部交流の青函桧交流会も感慨深いものがあります。その後の輪番制での開催はとても楽しいものでした。

また、記念誌『桧山民俗照相譜』の発刊に伴い、田畑栄一支部長とともに関係者への協力依頼で歩いたことも思い出します。全道大会、全国大会への参加や地元での開催も思い出されます。今まで何もしないで、ここまでこれたのは会員皆様に支えられてきたものと思います。北海道建築士、支部の活動を楽しみに一会員、『生涯会員』として、これからも宜しくお願いいたします。最後に誌面をお借りし有難うございます。(口述筆記) (昭和4年2月7日生92歳)



桧山支部創立写真(後列右3人目)

## 北空知支部

## 北空知支部の近況報告

事務局長

小松 純



今年度より北空知支部の事務局長に選任された小松と申します。よろしくお祈りします。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、各支部においては、支部活動に苦慮されていることと思われれます。

北空知支部においても昨年度は、例年実施している「建築士と仲間のつどいビールパーティー」や施設見学会を中止しました。今年度も通常総会は実施したものの新年交礼会は中止しており、事業計画は承認いただきましたが、実施については見通しがつかない状況となっています。

なお、今年度の総会では北空知支部の地域変更が議決されました。

これまで北空知支部は深川市域・幌加内・沼田・秩父別・妹背牛・北竜・雨竜町域で構成していましたが、今年度より幌加内町が旭川支部に編入することとなりました。幌加内町は平成22年に空知

総合振興局から上川振興局に管轄が移行された以降も北空知支部の仲間として活動してきましたが、管轄に合わせて支部も変更した方が今後の活動がしやすいとの結論に至ったものです。幌加内町の会員みなさまとは支部の行事で顔を合わすことを楽しみにしていたため、寂しい気持ちもありますが、将来を見越しての編入ですので、幌加内町の更なる発展を願いたいと思います。

建築の話題からは離れますが、北空知は全国でも有数の穀倉地帯で、中でも幌加内町はそば生産量が日本一で、地元産のそば粉で作られたお蕎麦は風味豊かでとても美味しく、ぜひご賞味いただきたいと思ひます。

ただ残念なことに、コロナ禍により外食消費が落ち込んだ影響で、そばの売り上げも低迷し、生産者が苦境に立たされています。会員のみなさまにはそばに限らず道内産の農産物を応援していただければ幸いです。

次に今後北空知支部で予定されている建築プロジェクトを紹介いたします。

現在、全国で耐震性能が不足する庁舎の建替えが進められており、北空知支部でも平成30年に雨竜町新庁舎が開庁し、深川市も令和5年の新庁舎開庁を目指し事業が進められています。

沼田町では、第5世代移動通信システム向け通信基盤の実証試験を行うテストセンターが建築中で、寒冷地におけるシステム動作が確保できれば情報インフラの発展に大きく寄与するものと期待されます。

北竜町では、隈研吾氏設計による「やわら保育園」が令和2年に開園し、「ひまわりの里」も同氏設計による再整備が計画されており、完成が楽しみです。

今後の建築予定ではありませんが、秩父別町の屋内遊戯施設「ちっくる」や妹背牛町のカーリングホール(夏期は屋内遊戯場)があり、親子で楽しむことができます。

北空知支部は各市町の会員各位・協力企業・行政が協力しあって活動してきました。このコロナ禍も力を合わせて乗り切っていきたいと考えています。

## 道士会の動き

### 道本部の主な会議報告（6月）

#### ◆まちづくり委員会web会議－2会議

〈開催日〉1日(火)

- 〈議題〉
- 1) 「まちづくりフォーラムin当麻」
  - 2) 「まちづくり活動事例集」及び「まちづくりゲーム」
  - 3) 高校生建築デザインコンクールについて
  - 4) 今後の活動計画について

### 本部の主な行事予定（7月）

24日(土) 第2回女性委員会

31日(土) 第2回情報委員会 (web会議併用)

### 関係機関等会議参加予定（7月）

14日(水) 建築設備士試験審査委員会

上記 高野会長

## 講習会のご案内（7月）

### 監理技術者講習

21日(水) 札幌市

### “会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■7月パスワード：Hiy009

## 編集後記

今月号の初めの記事「特別活動費」は北海道建築士会の新たな取り組みです。助成第1号となった『WEB版パズル』は小学校にて数年以内に一人一台のPCが配布されることを見据えて幅広く子供達に建築士の魅力を伝えたいという強い思いがあります。

高校生建築デザインコンクール最優秀作品は自粛生活での家時間を充実した生活に！という思いが伝わる作品です。是非ご覧下さい。

ワクチン接種が徐々に進み、緊急事態宣言の効果か全国的には新規感染者が減少傾向となり、少しずつではありますがコロナ禍の出口が見え始めているようにも感じます。

出口の光がどんどん広がって行くことを願います。

情報委員会 片岡 哲二(札幌支部)

## CPD認定プログラム(6月認定)

### ◆日本建築学会「建築保全標準・同解説」勉強会(ZOOM)

《日程及び会場》7月2日(金) 15:00~17:00

《単位数》 3単位

《問合せ先》 (一社)北海道建築技術協会

TEL 011-251-2794



## 会誌「北海道建築士」

## CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- ① CPD情報システムにログインをします。
- ② 自己申請の建築士会CPDメニューよりweb講習会/認定教材研修申請の形態 [自己学習型 [02]専門書誌等] を押します。
- ③ CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- ④ web講習会自習型教材の選択メニューから「北海道建築士」を選択します。
- ⑤ 設問への解答を選択します。
- ⑥ 入力後、「次へ」を押します。
- ⑦ 確認画面より「申請する」を押し、完了です。

注) 不正解の場合は登録できません。

## CPD 自習型認定研修の設問

P4-6 事務所建築における自然換気導入の実態と設計方法の検討

北海道建築士 No.287

2021/7/1 単位：1

設問 事務所建築における自然換気に関して最も不適切なものはどれか。

- a. 夏期は中性帯位置より上部から空気が流入し、中性帯位置より下部から空気が流出する。
- b. 基準階床面積に対する自然換気口有効開口面積は0.1%~0.5%とする建物が多い。
- c. 排気口に“おもり”を付けて自然換気の逆流を防止している建物がある。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。

情報委員会委員長/斎藤 勝哉

副委員長/早川 陽子・森 勝利・前田 繁

委員/柏倉 晶憲・村山 賢司

片岡 哲二・境谷 香奈

## 北海道建築士 No.287号

印刷 令和3年6月/発行 令和3年7月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
大五ビル  
電話 (011) 251-6076番  
URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
電話 (011) 811-7151番